

国際総合学類

College of International Studies

- 学士（国際関係学）
- Bachelor of Arts in International Relations
- 学士（国際開発学）
- Bachelor of Arts in International Development

人材養成目的 / Program Educational Objectives

グローバル化とともに複雑化する国際的な諸問題に対して、問題の本質を発見する洞察力と情報分析能力を身に付け、先見性と独自性に富む解決策を他者に伝えるコミュニケーション能力を備えた、文理融合型の実践的な人材を養成します。

養成する人材像	社会科学の基礎的能力を踏まえ、情報分析能力、コミュニケーション能力を習得するとともに、文理融合の総合智を「国際学」として蓄積し、国際関係と国際開発の分野で地球規模の社会的課題の解決に資することができる人材を養成します。
卒業後の進路	卒業生の約7割は民間企業、約1割は公務員・独立行政法人に就職し、国内外で広く活躍しています。約2割は大学院に進学しています。また、海外の大学院進学も実績があり、国際総合学類の卒業生が世界各地で活躍しています。就職先の業種・職種は、「航空・運輸・物流」「金融・証券・保険」「マスコミ・出版」「調査・コンサル」「官庁・自治体」等です。国際関係の知識を踏まえ、日本市場のとどまらず、欧州や成長するアジアの市場をはじめ、グローバルな世界で卒業生が活躍することを期待します。

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（国際関係学）の学位を授与します。

知識・能力（専門コンピテンス）	1. 国際学〔国際関係〕の理解	社会科学の基礎知識を基に、複雑化する国際関係を歴史的・制度的・文化的背景を踏まえつつ、国際関係に関する幅広い知識と多様な研究手法について理解している。
	2. 国際学〔国際関係〕の分析能力	国際関係学を軸にして、国際政治・国際法、経済学、文化・社会開発、環境・情報のいずれかの分野の専門知識を深めつつ、ICTの基礎的スキルに基づく多角的な方法論を活用し、多様な価値観と高度な論理的思考力を身につけ、国際関係に関する諸問題について適切な手法により分析し、批判的に評価できる。
	3. 国際学〔国際関係〕の論理的表現能力	多様な価値観と高度な論理的思考力を前提として、ICTを活用した分析・表現・プレゼンテーションのテクニカル・スキルを用い、国際関係に関する諸問題について論理的に表現することができる。
学修成果の評価に関する方針	学修成果の評価は、学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）が修得できているかを、卒業研究において主査と副査による卒業論文の査読を通じて行います。評価の対象には、卒業論文、卒業論文中間発表、卒業研究への取り組み等が含まれます。	

学修成果の評価			
専門コンピテンス	コンピテンスの内容	主な修得科目の科目区分、科目群、科目名等	評価方法
国際学（国際関係）の理解	国際関係に関する幅広い知識と多様な研究手法についての理解	専門基礎科目（国際学Ⅰ、国際関係論、比較政治学、国際法概論、国際経済論等）、専門科目（国際関係学）、国際学ゼミナール、独立論文、卒業論文など	講義・演習科目は、確認テスト、レポート等により評価する。国際学ゼミナールは、ゼミでの発表や卒業中間発表により総合的に評価する。独立論文は指導教員1名による査読により、卒業論文は指導教員を含む2名の査読体制により評価する。
国際学（国際関係）についての分析能力	国際関係に関する諸問題について適切な手法により分析し、批判的に評価する能力	専門基礎科目（国際学Ⅰ、国際関係論、比較政治学、国際法概論、国際経済論等）、専門科目（国際関係学）、国際学ゼミナール、独立論文、卒業論文など	講義・演習科目は、確認テスト、レポート等により評価する。国際学ゼミナールは、ゼミでの発表や卒業中間発表により総合的に評価する。独立論文は指導教員1名による査読により、卒業論文は指導教員を含む2名の査読体制により評価する。
国際学（国際関係）についての論理的表現能力	国際関係に関する諸問題について論理的に表現する能力	専門基礎科目（比較政治学、国際法概論、EDS、ED等）、専門科目（国際関係学）、国際学ゼミナール、独立論文、卒業論文など	講義・演習科目は、確認テスト、レポート等により評価する。国際学ゼミナールは、ゼミでの発表や卒業中間発表により総合的に評価する。独立論文は指導教員1名による査読により、卒業論文は指導教員を含む2名の査読体制により評価する。

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（国際関係学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

教育課程の 編成方針	<p>総合的な方針</p> <p>複雑かつ変動する現代の国際問題は、経済や文化と深く結びついており、その解明には政治学や国際関係論だけでなく学際的視点が求められます。「国際関係学主専攻」では、政治学、国際法、経済学、文化人類学等の社会科学の様々な分野を基礎とし、分野を横断する学際的教育を通じて、国際社会の課題を解決する能力を備えたグローバル人材の育成を目指します。特に、国際関係を中心に学際的側面から国際社会の諸課題を分析します。教育課程は、国際開発学主専攻と共通点の多い専門基礎科目から始まり、高年次に向けてより高度な国際関係学の固有の科目やゼミナールへと発展し、国際学（国際関係）の理解、国際学（国際関係）の分析能力、国際学（国際関係）の論理的表現能力の3つのコンピテンスを修得しつつ、段階的に知見を深めていく構成となっています。</p> <p>順次性に関する方針</p> <p>[1年次：基礎的学習]</p> <p>必修の専門導入科目「国際学Ⅰ～Ⅳ」を通じて、国際関係の基礎、グローバルな視野、幅広い教養を習得します。国際政治・国際法、経済学、文化・社会開発、環境・情報といった複数分野を俯瞰し、自らの適性に基づいて将来の専攻や専門分野を選択する基盤を築きます。同時に、英語を中心とした語学力とコミュニケーション能力を強化します。これにより、国際学（国際関係）の理解を深めます。</p> <p>[2年次：国際関係分野の学際的分析力の習得]</p> <p>国際学（国際関係学）を基盤に、専門基礎科目の選択履修を通じて、国際比較や歴史的・制度的背景を考察するとともに、環境・情報分野との融合領域に関する知識と分析手法を学びます。これにより学際的素養と国際関係への洞察力を涵養します。また、語学をコミュニケーションの手段として位置づけ、多様な価値観を前提とした真の国際的コミュニケーション能力を高めます。これにより、国際学（国際関係）の分析能力と論理的表現能力を養います。</p> <p>[3年次：国際関係における課題解決的・理論的研究]</p> <p>国際関係学主専攻の専門科目を中心に学修し、国際学（国際関係学）の専門性を深めます。隣接分野の動向を踏まえつつ、国際関係の具体的な課題解決に資する理論的知見を習得し、国際学（国際関係）の分析能力を深めます。特に、複雑化する国際状況の中で「何が問題か」を的確に見極め、鋭い問題意識と均衡のとれた国際感覚を養います。</p> <p>[4年次：国際関係に関する政策研究と実践]</p> <p>国際関係学主専攻の専門科目を中心に学修するとともに卒業研究を進め、国際学（国際関係学）の専門性を更に深めます。少人数ゼミナールへの参加と卒業論文の執筆を通じて、国際関係に関する独創的な問題設定、論理的な分析・実証を行います。これにより、国際学（国際関係）の分析能力と論理的表現能力を強化します。これによりガバナンス力を高め、国際的に通用する説得力ある政策提言を行える人材を育成します。</p>
---------------	--

<p>学修の方法 特色的な教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 社会科学分野と情報科学分野が中心となり、文理融合のカリキュラムを提供しています。 - 英語によるコミュニケーション能力を育成・強化するために、English Discussion Seminar や English Debate を必須科目としています。また、専門科目の中で英語による開講科目も多く、英語により専門の学びを深める機会があります。 - 社会国際学教育プログラム [社会・国際学群英語プログラム：Tsukuba International and Social Studies (TISS)] とカリキュラムを共有しており、日本人学生と外国人留学生在が共に学ぶ多文化共修 (国際共修) による学びの場を提供し、「国際性の日常化」を実現しています。
--------------------------------	---

育成する能力 (コンピテンス) と教育課程の構造				
	1年次	2年次	3年次	4年次
科目礎	総合科目、外国語、情報、体育等の教養科目の学修により、汎用コンピテンスを獲得します。			
専門基礎科目	<p>国際学 I-IV により、国際学の基礎を学びます (国際学の理解)。</p> <p>国際関係学や国際開発学の専門基礎科目を通じて、国際学の専門の基礎を学びます (国際学の理解、分析能力)。</p> <p>English Discussion Seminar、English Debate 等を通じてコミュニケーション能力を獲得します (国際学の論理的表現能力)。</p>			
専門科目	<p>○アジアの国際関係、ヨーロッパの国際関係、国際政治学、アジア政治、ヨーロッパ政治、日本政治等の学修を通じて、国際関係学の専門性を深めます (国際学の理解、分析能力、論理的表現力)。</p> <p>○国際開発論、計量経済学、社会開発論、開発人類学、地域開発論等の学修を通じて、国際開発学の専門性を深めます (国際学の理解、分析能力、論理的表現力)。</p> <p>○国際学ゼミナールと卒業研究を通じて、国際関係学の専門性を深めます (国際学の理解、分析能力、論理的表現力)。</p>			
科目関連	他学群・他学類の科目を履修し、幅広い教養と学際性による汎用コンピテンスを獲得します。			
	<p>1年: 国際学 (国際関係) の基礎となるグローバルな視野と広範な教養を身につけるとともに、語学力・コミュニケーション能力を強化</p>	<p>2年: 国際学 (国際関係) を基盤に、学際的素養と国際関係の課題に対する洞察力を涵養、コミュニケーション能力を一層強化</p>	<p>3年: 国際学 (国際関係) を深めつつ、国際関係の具体的解決策の構築に寄与する理論的知見の習得</p>	<p>4年: 国際学 (国際関係) を更に深めつつ、国際関係の独創的問題設定を行い、論理立てて分析・検証</p>

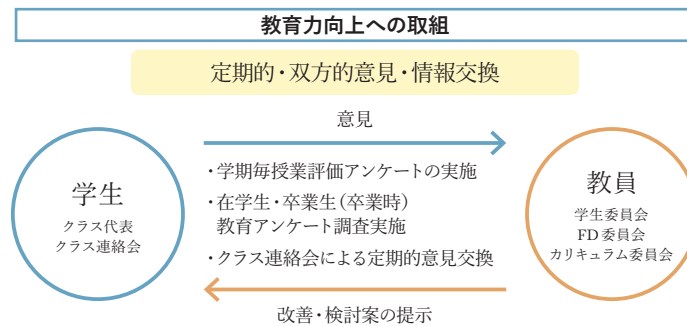
入学者受入れの方針 / Admission Policy

<p>求める人材</p>	<p>経済活動や環境問題は国境を越えて展開します。そこには、絶対的に正しいものはありません。既成観念にとらわれず、多様な価値観の存在を想像しながら、ものごとを観察し、何が問題かを見分け、何をどうすればいいのか、筋道をたてて考え、それを周りに説明でき、理解者を増やしていく意欲・チャレンジ精神をもつ人材が望まれます。</p>
---------------------	---

入学者選抜方針	個別学力検査等(前期日程)	高い基礎学力と優れた語学能力に加えて、国語、地理歴史、数学、理科のいずれかの学力を総合的に評価します。
	推薦入試	基礎学力とコミュニケーション能力に加えて、国際関係や国際開発への幅広い関心と強い学習意欲を有する人材を選抜します。
	国際バカロレア特別入試	国際バカロレア試験において一定レベルの成績をおさめ、国際関係や国際開発の諸問題を主体的に学ぶための知識や思考力、問題意識、明確な目標をもって学ぶ意欲、語学力を含めたコミュニケーション能力を総合的に評価し選抜します。

学修支援体制 / Learning Support Framework

学修支援	<ul style="list-style-type: none"> - 学群3年次生対象 TOEIC IP テストの受講を必須とするとともに、英語学習支援事業 (TOEFL-TOEIC 受験対策支援事業) を実施しており、学生の英語によるコミュニケーション能力向上を図っています。 - 専門基礎科目で「数理科学」「社会科学のためのデータサイエンス」を開講するとともに、国際学ゼミナールに関連して、大学レベルの数学や力学の学習や復習を進めており、文系を含む幅広い分野の学生に対して理工系基礎科目の学修をサポートしています。 - 国際協定校への派遣 (海外留学) をサポートする体制を整えており、毎年約 25 名の学生が留学しています。 - 国際学ゼミナールにて、ゼミ説明会や卒業論文中間発表会を実施し、卒業研究にて、3年次に独立論文の執筆を求めるとともに、4年次で卒業論文作成を必須としています。卒業論文は、評価基準を公表し、査読体制による評価制度を導入しており、学生の卒業研究の質の向上に務めています。 - 「国際総合特別賞」「国際総合学類優秀賞」を設け、成績優秀者や優れた課外活動を遂げた学生を表彰する制度を取り入れており、効果的な学修を推進するためのインセンティブを付与する体制を整えています。
学生同士の交流機会	<ul style="list-style-type: none"> - 学生自習室・資料室、学類サテライト室、学生控室、学生用ラウンジ等を整備し、日本人同士や日本人と外国人留学生在が交流できる多文化共修の学習環境を提供しています。 - 毎年、国際協定校から多くの短期留学生を受け入れており、チューター制度や授業履修等を通して、日本人学生と外国人留学生的の交流が積極的に行われています。 - 留学経験者とこれから留学する学生が知識と経験を共有する機会があり、学生同士による留学支援が積極的に行われています。
教員との交流機会	<ul style="list-style-type: none"> - 少人数ゼミ体制をとり、卒業研究を必須としており、学群 3-4 年次の 2 年間で教員との綿密な交流機会があります。 - クラス制をとり、クラス連絡会を定期的に開催し、履修やカリキュラム、学生生活全般、学習環境に関して、教員と学生の積極的な交流と意見交換の場を提供し、教育内容・環境の改善に務めています。 - 学類同窓会と連携して在学生の支援や進路相談を行い、卒業生と定期的に意見交換する機会を設けるとともに、SNS 等を通じて在学生と卒業生が迅速に情報・意見交換する場を整備しています。



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 卒業研究によるコンピテンスの修得状況を基に、教育会議等にて学生の学修成果に関する評価を行い、教育活動に対する点検と改善を実施します。
- 授業評価として、毎学期末にすべての授業について授業評価アンケートを実施しています。
- 成績評価分布の目標を定め、成績評価の分布を毎年確認し、教育の質の保証と改善につなげています。
- 毎年、在学生および卒業時の学生を対象に教育アンケート調査を実施するとともに、定期的に卒業生（卒業後）にも同様の調査を行っています。これらの調査を通じて、在学生や卒業生によるコンピテンス評価や学類教育に関する改善提案を受け取り、教育の質の保証と継続的な改善に活用しています。

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（国際開発学）の学位を授与します。

知識・能力（専門コンピテンス）	1. 国際学〔国際開発〕の理解	社会科学の基礎知識を基に、最新の国際開発の潮流を歴史的・制度的・文化的背景を踏まえつつ、国際開発に関する幅広い知識と多様な研究手法について理解している。
	2. 国際学〔国際開発〕の分析能力	国際開発学を軸にして、国際政治・国際法、経済学、文化・社会開発、環境・情報のいずれかの分野の専門知識を深めつつ、ICTの基礎的スキルに基づく多角的な方法論を活用し、多様な価値観と高度の数理的・論理的思考力を身につけ、国際開発に関する諸問題について適切な手法により分析し、批判的に評価できる。
	3. 国際学〔国際開発〕の論理的表現能力	多様な価値観と高度の数理的・論理的思考力を前提として、ICTを活用した分析・表現・プレゼンテーションのテクニカル・スキルを用い、国際開発に関する諸問題について論理的に表現することができる。
学修成果の評価に関する方針	学修成果の評価は、学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）が修得できているかを、卒業研究において主査と副査による卒業論文の査読を通じて行います。評価の対象には、卒業論文、卒業論文中間発表、卒業研究への取り組み等が含まれます。	

学修成果の評価			
専門コンピテンス	コンピテンスの内容	主な修得科目の科目区分、科目群、科目名等	評価方法
国際学（国際開発）の理解	国際開発に関する幅広い知識と多様な研究手法についての理解	専門基礎科目（国際学 II-IV、初級ミクロ経済学等）、専門科目（国際開発学）、国際学ゼミナール、独立論文、卒業論文など	講義・演習科目は、確認テスト、レポート等により評価する。国際学ゼミナールは、ゼミでの発表や卒論中間発表により総合的に評価する。独立論文は指導教員1名による査読により、卒業論文は指導教員を含む2名の査読体制により評価する。
国際学（国際開発）についての分析能力	国際開発に関する諸問題について適切な手法により分析し、批判的に評価する能力	専門基礎科目（国際学 II-IV、初級ミクロ経済学等）、専門科目（国際開発学）、国際学ゼミナール、独立論文、卒業論文など	講義・演習科目は、確認テスト、レポート等により評価する。国際学ゼミナールは、ゼミでの発表や卒論中間発表により総合的に評価する。独立論文は指導教員1名による査読により、卒業論文は指導教員を含む2名の査読体制により評価する。
国際学（国際開発）についての論理的表現能力	国際開発に関する諸問題について論理的に表現する能力	専門基礎科目（初級ミクロ経済学、EDS、ED等）、専門科目（国際開発学）、国際学ゼミナール、独立論文、卒業論文など	講義・演習科目は、確認テスト、レポート等により評価する。国際学ゼミナールは、ゼミでの発表や卒論中間発表により総合的に評価する。独立論文は指導教員1名による査読により、卒業論文は指導教員を含む2名の査読体制により評価する。

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（国際開発学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

教育課程の
編成方針**総合的な方針**

複雑かつ変動する現代の国際問題は、経済や文化と深く結びついており、その解明には学際的視点が求められます。「国際開発学専攻」では、経済学、政治学、国際法、文化人類学等の社会科学の様々な分野を基礎とし、より数理科学的側面から国際社会における様々な開発の課題を捉えて分析します。開発の在り方に関する様々な視点を踏まえ、分野を横断する学際的教育を通じて、国際開発を巡る実践的な知識と技術を身に付けることにより、課題解決能力を備えたグローバル人材の育成を目指します。教育課程は、国際関係学専攻と共通点の多い専門基礎科目から始まり、高年次に向けてより高度な国際開発学の固有の科目やゼミナールへと発展し、国際学（国際開発）の理解、国際学（国際開発）の分析能力、国際学（国際開発）の論理的表現能力の3つのコンピテンスを修得しつつ、段階的に知見を深めていく構成となっています。

順次性に関する方針**[1 年次：基礎的学習]**

必修の専門導入科目「国際学Ⅰ～Ⅳ」を通じて、国際開発の基礎、経済学、環境・情報、工学、都市計画分野を含む広範な教養を身につけます。国際政治・国際法、経済学、文化・社会開発、環境・情報といった複数分野を俯瞰し、自らの適性に基づいて将来の専攻や専門分野を選択する基盤を築きます。同時に、英語を中心とした語学力とコミュニケーション能力を強化します。これにより、国際学（国際開発）の理解を深めます。

[2 年次：国際開発分野の学際的分析力の習得]

国際学（国際開発）を基盤に、専門基礎科目の選択履修を通じて、現代社会の開発に関わる諸現象を分析・評価する手法を習得するとともに、環境・情報分野との融合領域に関する知識と分析手法を学びます。これにより学際的素養と国際関係への洞察力を涵養します。また、語学をコミュニケーションの手段として位置づけ、多様な価値観を前提とした真の国際的コミュニケーション能力を高めます。これにより、国際学（国際開発）の分析能力と論理的表現能力を養います。

[3 年次：国際開発における課題解決的・理論的研究]

国際開発学専攻の専門科目を中心に学修し、国際学（国際開発）の専門性を深めます。開発学的なアプローチに基づくモデル化の手法を習得し、国際開発の具体的な課題解決に資する理論的知見を習得します。特に、国際交流や異文化理解を踏まえ、国際開発における課題を的確に見極め、鋭い問題意識と均衡のとれた国際感覚を養います。これにより、国際学（国際開発）の分析能力を深めます。

[4 年次：国際開発に関する政策研究と実践]

国際開発学専攻の専門科目を中心に学修するとともに卒業研究を進め、国際学（国際開発）の専門性を更に深めます。少人数ゼミナールへの参加と卒業論文の執筆を通じて、国際開発に関する独創的な問題設定、論理的な分析・実証を行い、国際学（国際開発）の分析能力とともに論理的表現能力を強化します。これによりガバナンス力を高め、国際的に通用する説得力ある政策提言を行える人材を育成します。

学修の方法 特色的な教育	<ul style="list-style-type: none"> - 社会科学分野と情報科学分野が中心となり、文理融合のカリキュラムを提供しています。 - 英語によるコミュニケーション能力を育成・強化するために、English Discussion Seminar や English Debate を必須科目としています。また、専門科目の中で英語による開講科目も多く、英語により専門の学びを深める機会があります。 - 社会国際学教育プログラム [社会・国際学群英語プログラム：Tsukuba International and Social Studies (TISS)] とカリキュラムを共有しており、日本人学生と外国人留学生が共に学ぶ多文化共修（国際共修）による学びの場を提供し、「国際性の日常化」を実現しています。
-----------------	--

育成する能力（コンピテンス）と教育課程の構造				
	1年次	2年次	3年次	4年次
科目礎	総合科目、外国語、情報、体育等の教養科目の学修により、汎用コンピテンスを獲得します。			
専門基礎科目	<p>国際学 I-IV により、国際学の基礎を学びます (国際学の理解)。</p> <p>国際関係学や国際開発学の専門基礎科目を通じて、国際学の専門の基礎を学びます (国際学の理解、分析能力)。</p> <p>English Discussion Seminar、English Debate 等を通じてコミュニケーション能力を獲得します (国際学の論理的表現能力)。</p>			
専門科目	<p>○アジアの国際関係、ヨーロッパの国際関係、国際政治学、アジア政治、ヨーロッパ政治、日本政治等の学修を通じて、国際関係学の専門性を深めます (国際学の理解、分析能力、論理的表現力)。</p> <p>○国際開発論、計量経済学、社会開発論、開発人類学、地域開発論等の学修を通じて、国際開発学の専門性を深めます (国際学の理解、分析能力、論理的表現力)。</p> <p>○国際学ゼミナールと卒業研究を通じて、国際開発学の専門性を深めます (国際学の理解、分析能力、論理的表現力)。</p>			
科目関連	他学群・他学類の科目を履修し、幅広い教養と学際性による汎用コンピテンスを獲得します。			
	<p>1年: 国際学 (国際開発) の基礎となるグローバルな視野と広範な教養を身につけるとともに、語学力・コミュニケーション能力を強化</p>	<p>2年: 国際学 (国際開発) を基盤に、学際的素養と国際開発の課題に対する洞察力を涵養、コミュニケーション能力を一層強化</p>	<p>3年: 国際学 (国際開発) を深めつつ、国際開発の具体的な解決策の構築に寄与する理論的知見の習得</p>	<p>4年: 国際学 (国際開発) を更に深めつつ、国際開発の独創的問題設定を行い、論理立てて分析・検証</p>

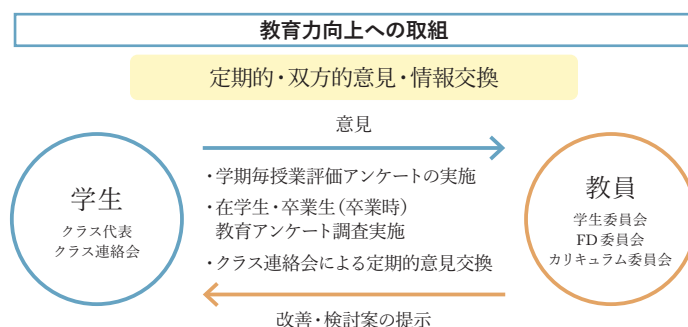
入学者受入れの方針 / Admission Policy

求める人材	<p>経済活動や環境問題は国境を越えて展開します。そこには、絶対的に正しいものはありません。既成観念にとらわれず、多様な価値観の存在を想像しながら、ものごとを観察し、何が問題かを見分け、何をどうすればいいのか、筋道をたてて考え、それを周りに説明でき、理解者を増やしていく意欲・チャレンジ精神をもつ人材が望まれます。</p>
-------	---

入学者選抜方針	個別学力検査等(前期日程)	高い基礎学力と優れた語学能力に加えて、国語、地理歴史、数学、理科のいずれかの学力を総合的に評価します。
	推薦入試	基礎学力とコミュニケーション能力に加えて、国際関係や国際開発への幅広い関心と強い学習意欲を有する人材を選抜します。
	国際バカロレア特別入試	国際バカロレア試験において一定レベルの成績をおさめ、国際関係や国際開発の諸問題を主体的に学ぶための知識や思考力、問題意識、明確な目標をもって学ぶ意欲、語学力を含めたコミュニケーション能力を総合的に評価し選抜します。

学修支援体制 / Learning Support Framework

学修支援	<ul style="list-style-type: none"> - 学群3年次生対象 TOEIC IP テストの受講を必須とするとともに、英語学習支援事業（TOEFL-TOEIC 受験対策支援事業）を実施しており、学生の英語によるコミュニケーション能力向上を図っています。 - 専門基礎科目で「数理科学」「社会科学のためのデータサイエンス」を開講するとともに、国際学ゼミナールに関連して、大学レベルの数学や力学の学習や復習を進めており、文系を含む幅広い分野の学生に対して理工系基礎科目の学修をサポートしています。 - 国際協定校への派遣（海外留学）をサポートする体制を整えており、毎年約25名の学生が留学しています。 - 国際学ゼミナールにて、ゼミ説明会や卒業論文中間発表会を実施し、卒業研究にて、3年次に独立論文の執筆を求めるとともに、4年次で卒業論文作成を必須としています。卒業論文は、評価基準を公表し、査読体制による評価制度を導入しており、学生の卒業研究の質の向上に務めています。 - 「国際総合特別賞」「国際総合学類優秀賞」を設け、成績優秀者や優れた課外活動を遂げた学生を表彰する制度を取り入れており、効果的な学修を推進するためのインセンティブを付与する体制を整えています。
学生同士の交流機会	<ul style="list-style-type: none"> - 学生自習室・資料室、学類サテライト室、学生控室、学生用ラウンジ等を整備し、日本人同士や日本人と外国人留学生在が交流できる多文化共修の学習環境を提供しています。 - 毎年、国際協定校から多くの短期留學生を受け入れており、チューター制度や授業履修等を通して、日本人学生と外国人留學生の交流が積極的に行われています。 - 留学経験者とこれから留学する学生が知識と経験を共有する機会があり、学生同士による留学支援が積極的に行われています。
教員との交流機会	<ul style="list-style-type: none"> - 少人数ゼミ体制をとり、卒業研究を必須としており、学群3-4年次の2年間で教員との綿密な交流機会があります。 - クラス制をとり、クラス連絡会を定期的開催し、履修やカリキュラム、学生生活全般、学習環境に関して、教員と学生の積極的な交流と意見交換の場を提供し、教育内容・環境の改善に務めています。 - 学類同窓会と連携して在学生の支援や進路相談を行い、卒業生と定期的に意見交換する機会を設けるとともに、SNS等を通じて在学生と卒業生が迅速に情報・意見交換する場を整備しています。



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 卒業研究によるコンピテンスの修得状況を基に、教育会議等にて学生の学修成果に関する評価を行い、教育活動に対する点検と改善を実施します。
- 授業評価として、毎学期末にすべての授業について授業評価アンケートを実施しています。
- 成績評価分布の目標を定め、成績評価の分布を毎年確認し、教育の質の保証と改善につなげています。
- 毎年、在学生および卒業時の学生を対象に教育アンケート調査を実施するとともに、定期的に卒業生（卒業後）にも同様の調査を行っています。これらの調査を通じて、在学生や卒業生によるコンピテンス評価や学類教育に関する改善提案を受け取り、教育の質の保証と継続的な改善に活用しています。